



入間市長 杉島 理一郎氏

市長のメッセージ

入間市は、埼玉県南西部に位置し、県下一の広大な茶畑や2つの丘陵など自然にも恵まれ、農業・商業・工業がバランス良く発展した人口約14.6万人の「香り豊かな緑の文化都市」です。

令和4年度からは、第6次総合計画後期基本計画がスタートし、また、令和4年5月には内閣府より「SDGs未来都市」の選定を受けました。官民連携による地域資源を活かした未来共創のまちづくりにより、誰もが心身ともに健康で幸せを実感できるまち「Well-being cityいるま」の実現に取り組み、「来てよし、住んでよし、働いてよし」の三方良しのまち・入間を目指していきます。

はじめに

入間市は、埼玉県の南西部、都心から40km圏に位置しており、東を所沢市、北を狭山市、西を飯能市と東京都青梅市、南を東京都瑞穂町に接している。東西9.3km、南北9.8km、面積44.69km²で、東南端の狭山丘陵、西北端の加治丘陵が、市内に点在する茶畑とともに緑の景観を形成し、西北部には入間川が流れ、中央部に霞川、南部に不老川がそれぞれ東西に流れるなど、自然あふれるまちとなっている。

市内の鉄道駅には、西武池袋線の入間市駅、武蔵藤沢駅、仏子駅、元加治駅と、JR八高線の金子駅がある。道路は圏央道の入間ICがあるほか、4つの国道が縦横に走っており、交通の利便性が高い。

入間地方は江戸時代には綿織物や絹織物などの産地としても知られ、昭和初期にかけて繊維工業のめざましい発展がみられた。入間市駅近くにある国の登録有形文化財「西洋館」は、全国有数の製糸会社であった石川組製糸の迎賓館として大正時代に建てられた。また、さらに、渋沢栄一翁が設立・経営に携わり、世間から「道德銀行」と呼ばれた黒須銀行（現在の埼玉りそな銀行の前身）本店の土蔵造り建築（市指定有形文化財）も現存しており、地域の往時の発展ぶりを今に伝えている。

市内には大型のショッピングセンターやアウトレットモールもあり、買い物が便利で暮らしやすい。また、市中心部の県営「彩の森入間公園」では、ジョギン

グやウォーキングが楽しめるほか、公園近くのジョンソントウンには、個性あふれる工房やカフェも多く、見ているだけでも楽しい。アウトレットモールやジョンソントウンには、市外からも多くの人を訪れる。

本年5月には内閣府より「SDGs未来都市」の選定を受け、「経済」「社会」「環境」面における取り組みをさらに強化している。

★スマート農業と6次産業化による狭山茶産業の振興

市中心部から少し離れると、茶畑が続く田園風景が広がる。入間市は狭山茶の主産地であり、その生産量は県下一を誇る。市はさらに狭山茶産業の振興を目指して、NTT東日本埼玉西支店・日本薬科大学と連携協定を締結して取り組みを行っている。

取り組みは大きく2つに分かれる。一つ目は、ICTを活用して茶葉生産の生産性向上や茶業者の労働環境改善につなげる、スマート農業の実現だ。茶畑にセンサーやカメラを設置し、気温や風速、画像デー



市内に広がる茶畑

入間市概要

人口(2022年7月1日現在)	146,073人
世帯数(同上)	67,437世帯
平均年齢(2022年1月1日現在)	48.6歳
面積	44.69km ²
製造業事業所数(工業統計)	255所
製造品出荷額等(同上)	4,748.0億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	955店
商品販売額(同上)	2,479.3億円
公共下水道普及率	88.5%
舗装率	72.2%

資料:「令和3年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 西武池袋線 入間市駅、武蔵藤沢駅、仏子駅、元加治駅
JR八高線 金子駅
- 圏央道 入間ICから市役所まで約3km

夕等を収集、遠隔地から茶葉の生育状況を把握できるようにする実証実験を進めている。

二つ目は、特に若い人の茶の消費拡大につながる新商品の開発で、茶葉に果肉や花びらで香りを掛け合わせ、狭山茶の魅力をさらに高めた4種類の狭山茶フレーバーティが完成した。本年3月には完成披露会が開催され、参加者から好評を博した。市内の中高生も参加して商品パッケージのデザインが決まり、新商品は若い人が集まる渋谷のショップでも販売されている。

これらの取り組みに加え、茶畑の景観を観光資源とした茶畑の景観活用事業の実施を進め、狭山茶産業の振興をさらに図ろうとしている。

★外出機会の創出で、高齢者が元気になるまち

市は高齢者の外出機会を増やし、楽しく外出することで健康増進を図っていくことを目的に、埼玉医科大学や民間企業、市内の民間病院と連携して、実証



「チョイソコ」を利用した実証実験の様子

実験を昨年11月から本年3月まで実施した。

デマンド型乗合送迎サービス「チョイソコ」を利用して、リハビリ専用カートを設置している市内のショッピングセンターで買い物をするなど、生活の中でリハビリができる仕組みづくりによる健康増進効果などを測定した。今年になってからは、外出するモチベーションを高めるため、買い物だけではなく、いちご狩りや抹茶体験、豆まきなどのイベントも実施した。高齢者の外出による健康増進の効果が認められた場合、この取り組みが本格的に展開され、市内の高齢者の健康寿命延伸が期待される。

★ゼロカーボンシティ実現に向けた官民連携の取り組み

昨年2月、近隣の4市とともに、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ共同宣言」を行った。そこで、入間市では今年度、地域脱炭素の取り組みを強化する。

具体的には太陽光発電設備を庁舎に設置し、公用車10台をEV(電気自動車)とする。2台を平日夜間・土日祝日に市民向けにシェアするサービスを来年2月から実施する。また、市民がV2Hシステム(電気自動車充放電設備)を設置する場合の補助事業(上限30万円)を本年8月に開始する。

さらに、本年6月、官民連携の体制を構築するため、「入間市ゼロカーボン協議会」を設立した。公共施設・民間施設の太陽光発電設備の導入促進等により、エネルギーの地産地消を目指す。(太田富雄)